

事務事業の概要	検出事項	監査の結果
<p>公益財団法人大阪府国際交流財団（以下「財団」という。）では、大阪府内の大学、専門学校等に在籍する外国人留学生を対象とした学生寮として大阪府堺留学生会館オリオン寮（以下「オリオン寮」という。）を運営している。</p> <p>財団は、存続期間を平成34年3月末までとしており、オリオン寮を今後永続して所有することは困難なため、その譲渡について、公立大学法人大阪府立大学へ申し入れをしているが、現時点での方向性は未定である。</p> <p>1 建築経緯 オリオン寮は大阪府が府民からの寄附10億円と財団法人日本国際教育協会からの奨励金約1億円を原資として、旧大阪府職員上野芝第二宅舎跡地に建設した。平成6年12月竣工。平成7年2月オープン。</p> <p>2 入居条件等 (1) 入居使用料：月額 26,000円 (2) 居住施設：85室 (3) 入居年限：原則2年以内</p> <p>3 運営状況 (1) オープン当初から、財団法人大阪府国際交流財団（現：財団）が、大阪府から施設の貸与を受け運営管理していた。 (2) 財団は、平成21年3月31日に大阪府から土地を有償（評価額 約2.3億円）、建物を無償（評価額 約6.4億円）で譲渡された。 (3) 入居率は概ね8割台で推移しており、大学等との連携により安定的に入居者を確保している。また、財団は有人警備から機械警備に変更するなど、経費の削減を図りつつ運営している。 (4) オリオン寮運営事業の収支は、平成23年度までは、特別会計で把握されていたが、平成24年4月に公益認定を受け公益財団法人となった際に、財団は、事業を3つの公益目的事業会計に分類（「グローバル人材育成活用事業」・「外国人活動環境整備事業」・「国際交流情報発信事業」）した。その結果、オリオン寮運営事業は、「外国人活動環境整備事業」の会計区分に含められることとなり、平成24年度および平成25年度は、単独では、収支表を作成していない。 オリオン寮運営事業の資金収支は、下記のとおり、平成24年度および平成25年度の大規模修繕工事の影響を除くと、概ね黒字基調で推移している。 ※「外国人活動環境整備事業」：オリオン寮事業、留学プロモーション事業、留学生の就職支援、多言語相談支援事業等が含まれる。</p>	<p>1 財団は、今後、他の機関への譲渡の可能性を含め、施設の維持やオリオン寮の今後の在り方を検討するに当たり、事業単独での収支を把握する必要がある。 現在、オリオン寮運営事業の収支は簡便的に把握しているものの、収支差額としての資金余剰は、他の事業（外国人活動環境整備事業）と区分管理されていない。</p> <p>2 財団は、平成27年度以降のオリオン寮の維持修繕費として、毎年度400万円を見込んでいるが、特定の財源は確保されていない。</p> <p>3 オリオン寮の修繕引当資産は、積立ての方法、目的取崩の要件、目的外取崩の要件が明確にされていない。そのため、積立てや取崩しとその都度任意に行われている。</p>	<p><b>【改善を求めるもの（意見）】</b> オリオン寮運営事業については、中長期的な維持修繕を含めた事業の採算性を把握できるように、事業単独の収支を明らかにするとともに、資金余剰高についても他の事業と区分して用途を検討されたい。 また、修繕引当資産については、特定資産の目的、積立方法、取崩要件等を定めた取扱要領を整備されたい。</p> <p>公益法人会計基準に関する実務指針（その2） （日本公認会計士協会 平成18年4月13日） Q10：一般正味財産や負債を財源等とする特定資産にはどのようなものがありますか。また、特定資産を設定するときには、どのような点に注意すればよいですか。 A：一般正味財産や負債を財源等とする特定資産には、例えば、次のようなものがある。 (1) 特定の目的のための預金や有価証券等の金融資産 一般正味財産を財源とする特定資産とは、法人自らが特定の目的のために預金や有価証券等を当該資産の保有目的を示す科目で積み立てるものであり、例えば、会館建設積立資産等がある。 また、負債に対応する特定資産とは、負債の支払いに充てるために預金や有価証券等を当該資産の保有目的を示す科目で積み立てるものであり、例えば、退職給付引当金に対応する退職給付引当資産、預り保証金に対応する預り保証金引当資産等がある。 これらの特定資産は、次の事項を定めた取扱要領を作成することが望ましい。 ア目的 イ 積立ての方法 ウ 目的取崩の要件 エ 目的外取崩の要件 オ 運用方法 カ その他</p>

(単位：千円)

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
事業収入	21,225	22,770	23,846	24,192	22,908
その他	598	254	260	262	201
<b>収入合計</b>	<b>21,823</b>	<b>23,024</b>	<b>24,106</b>	<b>24,455</b>	<b>23,110</b>
人件費	7,288	8,115	8,489	6,775	6,802
消耗什器備品費	43	—	—	131	1,598
消耗品費	229	240	654	519	3,466
修繕費	1,156	1,995	1,791	11,366	16,838
光熱水費	3,138	3,271	3,282	3,242	3,403
委託費	3,828	3,333	4,187	3,582	5,443
その他	1,686	1,282	1,219	1,890	1,207
<b>支出合計</b>	<b>17,372</b>	<b>18,239</b>	<b>19,623</b>	<b>27,508</b>	<b>38,759</b>
<b>収支差額</b>	<b>4,451</b>	<b>4,785</b>	<b>4,482</b>	<b>▲ 3,053</b>	<b>▲ 15,649</b>

※平成24年度および平成25年度のオリオン寮運営事業の収支は、財団の決算書上、区分表示されていないが、今回の監査にあたり財団に作成を依頼したものである。

※平成24年度および平成25年度の人件費には、本社で留学生の募集や記帳等の管理を行っている職員の人件費等は含まれていない（平成21年度～平成24年度には含まれている）。

#### 4 修繕計画

- (1) オリオン寮について、財団は存続期間の平成33年度末までの修繕計画を作成し、下記のとおり平成24年度から平成26年度までの3か年で、今後10年間の継続を可能とするための改修・設備更新を行っている。なお、財団では、平成27年度から平成33年度までの維持修繕費として、毎年度400万円を見込んでいる。

(単位：千円)

内容	計画全体			平成24年度			平成25年度			平成26年度		
	計画	実績	差額	計画	実績	差額	計画	実績	差額	計画	実績	差額
当初計画分	44,895	30,895	14,000	8,823	8,823	0	15,846	13,004	2,842	20,225	9,066	11,158
当初計画外	0	4,463	▲ 4,463	0	0	0	0	4,463	▲ 4,463	0	0	0
合計	44,895	35,358	9,536	8,823	8,823	0	15,846	17,468	▲ 1,621	20,225	9,066	11,158

※平成26年度計画分のうち、居室エアコン（2百万円）は、平成25年に前倒実施。電気温水器取替（8百万円）は、使用可能なため、故障の都度取り替えに変更。

- (2) 修繕引当資産の推移は、下記のとおりである。平成25年度末残高は、137万円となっている。

(単位：千円)

	期首残高	積立	取崩	期末残高
平成17年度	—	2,000	—	2,000
平成18年度	2,000	2,000	—	4,000
平成19年度	4,000	2,000	—	6,000
平成20年度	6,000	—	—	6,000
平成21年度	6,000	10,000	—	16,000
平成22年度	16,000	1,000	—	17,000
平成23年度	17,000	—	—	17,000
平成24年度	17,000	—	—	17,000
平成25年度	17,000	—	▲ 15,622	1,378

措置の内容

オリオン寮運営事業については、事業単独の収支を明確にするため、平成26年度決算から参考資料として「留学生会館運営事業費収支計算書」を作成するとともに、資金余剰残高については、平成27年9月11日に修繕引当資産に積み立てた。また、修繕引当資産について、その目的、積立方法、取崩要件等を定めるため、特定資産取扱規程の制定について、平成27年3月14日開催の財団理事会に諮り、議決された。